自由定期付積立型新変額保険

投資型ユニバーサル保険 Prime Life
2022年度 特別勘定の現況

●投資環境（2022年度）

日本株式市場

当年度の国内株式市場は前年度末対比小幅に上昇しました。年度前半、新型コロナウイルスに対する行動規制の緩和によって経済活動が徐々に再開されたことや、大幅な円安進行に伴う企業業績拡大への期待などがプラス要因となった一方、欧米中央銀行の金融引き締め強化による景気後退リスクなどがマイナス要因となり、国内株式市場はボックス圏で推移しました。2022年12月に日銀による金融緩和政策の変更（事実上の利上げ）が行われたことにより円高・株安が進んだものの、2023年1月の日銀金融政策決定会合では政策変更が見送られたことや、東証がPBR（株価純資産倍率）1倍割れの企業に対して企業価値改善策の開示を求める方針を示したことが材料視されて、国内株式市場は3月上旬に年度中の高値を付けました。その後、米国やスイスの金融機関の信用不安から国内株式市場は下落に転じましたが、前年度末対比小幅に上昇して当年度を終えました。

外国株式市場

当年度の外国株式市場は下落しました。年度前半は、中国で新型コロナウイルス対策としてロックダウン（都市封鎖）が拡大されるとの懸念が高まったことや、世界的にインフレ圧力が強まるなか、FRB（米連邦準備制度理事会）による積極的な利上げへの懸念が高まり、外国株式市場は下落しました。年度後半は、インフレ率が鈍化するなか、FRBによる積極的な利上げ継続観測が後退したことを受けて、外国株式市場は上昇基調に転じましたが、年度末にかけては米国の地方銀行の破綻やスイスの大手金融機関の信用不安の高まりなどから下落し、前年度末対比でも下落して当年度を終えました。

日本債券市場

当年度、10年国債利回りは上昇しました。年度前半、インフレ指標の高止まりを背景に、欧米の主要中央銀行が政策金利の大幅な利上げを継続したことによる世界的な国債利回りの上昇を受けて、10年国債利回りは日銀が設定した長期金利の変動許容幅の上限に近い0.22-0.25%の狭いレンジ内で推移しました。年度後半、日銀金融政策決定会合で長期金利の変動許容幅を±0.25%程度から±0.50%程度に拡大することが発表されると、10年国債利回りは0.5%程度まで急上昇する展開となりました。年度末にかけては、米国での銀行破綻をきっかけとした金融システム不安を背景に10年国債利回りは0.25%程度まで低下しましたが、年度を通しては上昇しました。

外国債券市場

当年度、米国債利回りは上昇しました。年度前半、世界的にインフレの高止まりが懸念されるなか、FRBが2022年3月の会合で政策金利の引き上げに踏み切り、その後も大幅な利上げを継続したことで、米国債利回りは上昇基調で推移しました。年度後半は、雇用統計やCPI（消費者物価指数）に落ち着きが見られ、FRBによる金融引き締め長期化への懸念が後退したことから、米国債利回りは低下基調に転じました。年度末にかけては、雇用・物価指標が堅調となった一方、米国の銀行破綻を受けた欧米の金融システム不安の高まりから米国債利回りは大きく低下しましたが、前年度末対比では上昇して当年度を終えました。
当年度、ドイツ国債利回りは上昇しました。資源価格の高騰などを背景としたインフレが高進するなか、2022年7月のECB（欧州中央銀行）会合で0.5%の利上げに踏み切り、その後も利上げを継続する姿勢を示したことから、ドイツ国債利回りは上昇基調で当年度を終えました。

外国為替市場

米ドル円為替レートは、年度前半は米国のインフレ率の高まりや金融政策正常化を急ぐ姿勢を受けて米国債利回りが上昇し、日本と米国の金利差拡大を背景に円安米ドル高となりました。年度後半は、FRBによる利上げ継続への懸念が後退したことや、日銀が10年国債利回りの変動許容幅を拡大したことなどを背景に円高米ドル安が進行しましたが、前年度末対比では円安米ドル高の水準で当年度を終えました。
ユーロ円為替レートは、インフレ率の高止まりやECBによる金融政策正常化に向けた動きを背景に円安ユーロ高基調で推移しました。米国CPIが事前予想を下回ったことを受けて世界的に利上げ継続懸念が後退し円高ユーロ安となる局面もありましたが、ユーロ圏の景気が底堅いことを受けたECB高官による金融引き締めに積極的な発言を背景に円安ユーロ高が進行し、前年度末対比円安ユーロ高の水準で当年度を終えました。

●運用実績の推移および運用方針

①当期の運用実績の推移	各特別勘定の運用状況をご参照ください。
②当期の運用方針	当社は、各特別勘定の運用方針に従い、特別勘定の運用を実施しました。
③今後の運用方針	当社は、今後とも、各特別勘定の運用方針および管理運営方針に従い、特別勘定の運用を行う方針です。

当社は2022年度決算（決算日：2023年3月31日）を行いました。当資料は2022年度の運用状況をご報告するものです。
4ページ以降は特別勘定レポート（2023年3月末現在）からの抜粋となります。最新の運用状況は当社ホームページにてご確認いただけます。

●特別勘定資産の内訳（2022年度末）

（単位：千円）

区分	金額			
	世界株式CA	日本株式FA	日本株式BA	アセット・アロケーションSA
現預金・コールローン	16,365	3,129	2,674	17,287
有価証券	1,179,413	185,588	164,818	886,451
公社債	−	−	−	−
株式	−	−	−	−
外国証券	−	−	−	−
公社債	−	−	−	−
株式等	−	−	−	−
その他の証券	1,179,413	185,588	164,818	886,451
貸付金	−	−	−	−
その他	−	−	−	−
貸倒引当金	−	−	−	−
合計	1,195,778	188,717	167,492	903,739

※単位未満切捨て

（単位：千円）

区分	金額			
	世界バランスDSA	世界債券ヘッジMA	世界債券MA	マネー・プールB
現預金・コールローン	3,758	1,994	2,481	52,825
有価証券	254,248	99,807	136,870	−
公社債	−	−	−	−
株式	−	−	−	−
外国証券	−	−	−	−
公社債	−	−	−	−
株式等	−	−	−	−
その他の証券	254,248	99,807	136,870	−
貸付金	−	−	−	−
その他	−	−	−	−
貸倒引当金	−	−	−	−
合計	258,007	101,801	139,351	52,825

※単位未満切捨て

●特別勘定の運用収支状況（2022年度）

（単位：千円）

区分	金額			
	世界株式CA	日本株式FA	日本株式BA	アセット・アロケーションSA
利息配当金等収入	26,406	6,137	5,209	13,570
有価証券売却益	−	−	−	−
有価証券償還益	−	−	−	−
有価証券評価益	778,016	78,429	84,219	439,692
為替差益	−	−	−	−
金融派生商品収益	−	−	−	−
その他の収益	−	−	−	−
有価証券売却損	−	−	−	−
有価証券償還損	−	−	−	−
有価証券評価損	787,819	83,467	84,805	446,227
為替差損	−	−	−	−
金融派生商品費用	−	−	−	−
その他の費用及び損失	−	−	−	−
収支差額	16,603	1,098	4,623	7,035

※単位未満切捨て

（単位：千円）

区分	金額			
	世界バランスDSA	世界債券ヘッジMA	世界債券MA	マネー・プールB
利息配当金等収入	14,254	−	1,012	−
有価証券売却益	−	−	−	−
有価証券償還益	−	−	−	−
有価証券評価益	102,208	770	18,038	−
為替差益	−	−	−	−
金融派生商品収益	−	−	−	−
その他の収益	−	−	−	−
有価証券売却損	−	339	−	−
有価証券償還損	−	−	−	−
有価証券評価損	122,525	10,629	23,348	−
為替差損	−	−	−	−
金融派生商品費用	−	−	−	−
その他の費用及び損失	−	−	−	−
収支差額	−6,062	−10,198	−4,296	−

※単位未満切捨て

●有価証券の売買状況（2022年度）

（単位：千口、千円）

特別勘定の名称	銘柄	買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
世界株式CA	キャピタル・インターナショナル・グローバル・エクイティ・ファンドVA-1＊1	5,210	13,000	15,790	13,985
日本株式FA	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3＊1	1,014	3,000	4,915	8,816
日本株式BA	日本株式インデックス・ファンドVA1＊2	－	－	5,078	5,754
アセット・アロケーションSA	さわかみファンド	－	－	9,516	14,807
世界バランスDSA	大和住銀グローバルバランスファンドSVA	9,648	41,600	7,385	18,056
世界債券ヘッジMA	JDFワールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジあり）	18,686	23,110	7,504	9,749
世界債券MA	JDFワールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジなし）	5,579	10,700	3,379	5,493
マネー・プールB	―	－	－	－	－

※単位未満切捨て
＊1　適格機関投資家専用
＊2　適格機関投資家限定

●保有契約高（2022年度末）

（単位：件、百万円）

項目	件数	金額
自由定期付積立型新変額保険　投資型ユニバーサル保険　Prime Life	564	5,915

※単位未満切捨て

●特別勘定の内容

特別勘定の名称	銘柄	運用会社	資産運用関係費用（年率）＊3
世界株式CA	キャピタル・インターナショナル・グローバル・エクイティ・ファンドVA-1＊1	キャピタル・インターナショナル	0.77%（税込）程度
日本株式FA	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3＊1	フィデリティ投信	0.968%（税込）程度
日本株式BA	日本株式インデックス・ファンドVA1＊2	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ	0.275%（税込）程度
アセット・アロケーションSA	さわかみファンド	さわかみ投信	1.10%（税込）程度
世界バランスDSA	大和住銀グローバルバランスファンドSVA	三井住友DSアセットマネジメント 投資顧問：ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インク	1.078%（税込）程度
世界債券ヘッジMA	JDFワールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジあり）	ブラックロック・ジャパン	0.858%（税込）程度
世界債券MA	JDFワールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジなし）		0.858%（税込）程度
マネー・プールB	特に定めません	特に定めません	金利情勢、投資対象とする短期金融商品によって変動します。

＊1　適格機関投資家専用
＊2　適格機関投資家限定
＊3　資産運用関係費用は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、監査報酬、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等がかかりますが、費用の発生前に金額や計算方法を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は投資信託の純資産総額より差し引かれます。
したがって、ご契約者はこれらの費用を間接的に負担することになります。なお、資産運用関係費用は、運用手法の変更等により将来変更される可能性があります。

世界株式CA（2023年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2003年12月1日
【資産分類】世界株式
【運用方針】
日本を含む世界主要国の株式に分散投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。原則として為替ヘッジは行いません。
【投資対象となる投資信託】
キャピタル・インターナショナル・グローバル・エクイティ・ファンドVA-1

■ユニットプライスの推移

	ユニットプライス	前月比
2020年 3月31日	158.17	―
2022年 3月31日	268.83	10.81%
4月30日	254.50	−5.33%
5月31日	256.66	0.85%
6月30日	254.79	−0.73%
7月31日	263.63	3.47%
8月31日	263.16	−0.18%
9月30日	251.86	−4.30%
10月31日	264.20	4.90%
11月30日	268.34	1.57%
12月31日	256.06	−4.58%
2023年 1月31日	265.23	3.58%
2月28日	269.67	1.67%
3月31日	269.21	−0.17%

3ヶ月変化率	5.13%
6ヶ月変化率	6.89%
1年変化率	0.14%
3年変化率	70.20%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：千円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	16,365	1.4%
有価証券等		
キャピタル・インターナショナル・グローバル・エクイティ・ファンドVA-1	1,179,413	98.6%
その他	―	―
資産合計	1,195,778	100.0%
負債合計	―	―
純資産総額	1,195,778	100.0%

投資対象となる投資信託について

キャピタル・インターナショナル・グローバル・エクイティ・ファンドVA-1（適格機関投資家専用）の基本情報

【運用会社】キャピタル・インターナショナル
【運用対象】日本を含む世界主要国の株式など
【ベンチマーク】MSCI-World Index

運用状況

■国別・地域別内訳※（2023.3末現在）

国名	ベンチマーク構成比	ポートフォリオ構成比	ポートフォリオ銘柄数
北米	71.3%	47.0%	99
アメリカ	68.0%	45.6%	93
カナダ	3.3%	1.3%	6
欧州・中近東	19.1%	34.6%	53
イギリス	4.2%	6.0%	10
フランス	3.6%	11.4%	15
スイス	2.9%	3.5%	9
ドイツ	2.5%	1.5%	2
オランダ	1.3%	3.1%	3
ノルウェー	0.2%	0.6%	1
その他	4.4%	8.4%	13
アジア・オセアニア	9.6%	10.0%	23
日本	6.2%	6.6%	16
香港	0.8%	1.9%	4
その他	2.6%	1.5%	3
その他地域	―%	3.7%	8
キャッシュ他	―%	4.8%	―
合計	100.0%	100.0%	183

■業種別内訳※（2023.3末現在）

業種	ベンチマーク構成比	ポートフォリオ構成比
情報技術	22.7%	17.7%
ヘルスケア	13.3%	15.7%
金融	13.0%	14.2%
資本財・サービス	10.7%	12.9%
生活必需品	7.6%	9.3%
一般消費財・サービス	10.8%	8.0%
コミュニケーション・サービス	6.9%	5.3%
素材	4.4%	4.7%
エネルギー	5.0%	4.1%
公益事業	3.0%	2.5%
不動産	2.5%	0.8%
キャッシュ他	―%	4.8%
合計	100.0%	100.0%

■組入上位10銘柄※（2023.3末現在）

	銘柄名	国名	業種	構成比
1	ノボ　ノルディスク	デンマーク	ヘルスケア	2.7%
2	マイクロソフト	アメリカ	情報技術	2.6%
3	ASMLホールディング	オランダ	情報技術	2.2%
4	ブロードコム	アメリカ	情報技術	2.2%
5	アストラゼネカ	イギリス	ヘルスケア	2.0%
6	アルファベット	アメリカ	コミュニケーション・サービス	1.9%
7	アップル	アメリカ	情報技術	1.8%
8	サフラン	フランス	資本財・サービス	1.7%
9	ユナイテッドヘルス・グループ	アメリカ	ヘルスケア	1.4%
10	AIAグループ	香港	金融	1.3%

※構成比は投資対象となる投資信託の時価総額に対する割合

【運用会社による投資信託へのコメント】（2023.3末現在）
2023年3月の世界の株式市場は、現地通貨ベースが上昇した一方、円ベースは下落しました。米国株式市場（現地通貨ベース）は、前半は複数の地銀の破綻を契機に金融システム不安が高まったことから、大幅に下落しました。後半には金融当局の迅速な対応により不安が和らいだことで市場は落ち着きを取り戻し、長期金利の低下も支えとなって上昇しました。欧州株式市場（同）は、スイス金融大手の経営不安が広がるなかで一時急落しましたが、過度な警戒感の後退にともない下げ幅を縮小しました。セクター別（同）では、情報技術やコミュニケーション・サービスなどが上昇した一方、金融や不動産などは下落しました。
当ファンドでは、キャピタル・インターナショナル・ファンド・グローバル・エクイティ・マザーファンドを通じてキャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）に投資を行った結果、当月の基準価額騰落率は−0.36%となりました。キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）における運用に関しては、セクター別では金融やヘルスケアにおける銘柄選択、国別では日本の銘柄選択などがプラス要因となりました。一方、セクター別では情報技術における銘柄選択、国別では米国の銘柄選択などはマイナス要因となりました。

・当資料は、投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる半面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、積立金額、満期払戻金額、解約払戻金額および死亡保険金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

日本株式FA（2023年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2003年12月1日
【資産分類】日本株式
【運用方針】
日本の株式の中で、将来高い成長が期待できる銘柄を厳選して分散投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。
【投資対象となる投資信託】
フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：千円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	3,129	1.7%
有価証券等		
フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3	185,588	98.3%
その他	－	－
資産合計	188,717	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	188,717	100.0%

■ユニットプライスの推移

	ユニットプライス	前月比
2020年 3月31日	147.25	－
2022年 3月31日	215.83	5.00%
4月30日	200.23	−7.23%
5月31日	203.89	1.83%
6月30日	200.84	−1.49%
7月31日	209.25	4.19%
8月31日	211.71	1.18%
9月30日	203.07	−4.08%
10月31日	207.54	2.20%
11月30日	218.79	5.42%
12月31日	201.27	−8.01%
2023年 1月31日	211.77	5.22%
2月28日	210.33	−0.68%
3月31日	214.69	2.08%
3ヶ月変化率		6.67%
6ヶ月変化率		5.72%
1年変化率		−0.53%
3年変化率		45.80%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA３（適格機関投資家専用）の基本情報

【運用会社】フィデリティ投信
【運用対象】日本株式
【ベンチマーク】TOPIX（配当金込）

運用状況

■市場別構成比（2023.3末現在）

市場	構成比
東証プライム	95.2%
東証スタンダード	1.7%
東証グロース	0.6%
その他市場	－
現金･その他	2.5%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■上位5業種構成比（2023.3末現在）

	業種	構成比
1	電気機器	24.0%
2	化学	8.6%
3	情報・通信業	8.1%
4	卸売業	6.5%
5	機械	5.4%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10銘柄（2023.3末現在）

	銘柄名	業種	構成比
1	キーエンス	電気機器	4.5%
2	ソニーグループ	電気機器	3.8%
3	ミスミグループ本社	卸売業	2.9%
4	東京エレクトロン	電気機器	2.6%
5	伊藤忠商事	卸売業	2.5%
6	信越化学工業	化学	2.5%
7	オリエンタルランド	サービス業	2.4%
8	三井ハイテック	電気機器	2.3%
9	村田製作所	電気機器	2.3%
10	日立製作所	電気機器	2.2%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合　（銘柄数　167）

【運用会社による投資信託へのコメント】（2023.3末現在）

当月の東京株式市場は、米銀の破綻を発端とした金融不安から中旬に急落する場面もありましたが、月末にかけては値を戻し、月間では3か月連続の上昇となりました。

市場予想を上回る経済指標や全国人民代表大会の開催を背景とした中国景気の回復期待のほか、円安が支援材料となり、上旬の株価は大きく上昇しました。その後は米銀の相次ぐ経営破綻に端を発した金融不安が欧州にも飛び火し、世界的にリスク回避の売りが広がる中、株価は急落を余儀なくされました。ただし経営不安が高まったスイス金融大手のクレディ・スイス・グループについて同最大手のUBSが買収することで合意したほか、金融システム不安の防止に向けた金融当局の対策などが支えとなり、株価は徐々に落ち着きを取り戻しました。下旬は欧米の金融不安が後退する中で、3月期決算企業の配当取りなどを意識した買いが入ったほか、上場企業に対して資本コストや株価を意識した経営をするよう東証が要請したことを好感する動きなどから急速に下値を切り上げ、日経平均株価は28,000円台を回復して月を終えました。

月間の騰落率は、TOPIX（配当込）が＋1.70%、日経平均株価は＋2.17%でした。

・当資料は、投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる半面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、積立金額、満期払戻金額、解約払戻金額および死亡保険金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

日本株式BA（2023年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2003年12月1日
【資産分類】日本株式
【運用方針】
東証株価指数（TOPIX）採用銘柄を中心に分散投資を行い、
TOPIXの動きに連動する投資成果を目指します。
【投資対象となる投資信託】
日本株式インデックス・ファンドVA1

■ユニットプライスの推移

	ユニットプライス	前月比
2020年 3月31日	138.30	―
2022年 3月31日	190.59	5.80%
4月30日	180.14	−5.48%
5月31日	186.02	3.26%
6月30日	183.21	−1.51%
7月31日	188.21	2.73%
8月31日	189.83	0.86%
9月30日	181.91	−4.17%
10月31日	184.50	1.42%
11月30日	193.28	4.76%
12月31日	183.99	−4.81%
2023年 1月31日	192.05	4.38%
2月28日	192.83	0.41%
3月31日	193.85	0.53%
3ヶ月変化率		5.36%
6ヶ月変化率		6.56%
1年変化率		1.71%
3年変化率		40.17%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：千円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	2,674	1.6%
有価証券等 日本株式インデックス・ファンドVA1	164,818	98.4%
その他	―	―
資産合計	167,492	100.0%
負債合計	―	―
純資産総額	167,492	100.0%

投資対象となる投資信託について

日本株式インデックス・ファンドVA１＜適格機関投資家限定＞の基本情報

【運用会社】ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ
【運用対象】日本株式
【ベンチマーク】TOPIX（配当金込）

運用状況

■上位5業種構成比（2023.3末現在）

	業種	構成比
1	電気機器	17.44%
2	情報・通信業	8.36%
3	輸送用機器	7.20%
4	化学	6.08%
5	卸売業	5.96%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■主要指標（2023.3末現在）

	ポートフォリオ
銘柄数	2,155
β値*	1.00
推定トラッキング・エラー（年率）*	0.01%

＊対ベンチマーク

■組入上位20銘柄（2023.3末現在）

	銘柄名	業種	構成比
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.46%
2	ソニーグループ	電気機器	2.85%
3	キーエンス	電気機器	2.16%
4	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	1.76%
5	日本電信電話	情報・通信業	1.71%
6	第一三共	医薬品	1.41%
7	武田薬品工業	医薬品	1.30%
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.28%
9	日立製作所	電気機器	1.20%
10	信越化学工業	化学	1.20%
11	東京エレクトロン	電気機器	1.14%
12	任天堂	その他製品	1.09%
13	三井物産	卸売業	1.07%
14	ＫＤＤＩ	情報・通信業	1.06%
15	三菱商事	卸売業	1.05%
16	ＨＯＹＡ	精密機器	1.04%
17	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.01%
18	本田技研工業	輸送用機器	0.96%
19	ダイキン工業	機械	0.96%
20	伊藤忠商事	卸売業	0.94%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

・当資料は、投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる半面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、積立金額、満期払戻金額、解約払戻金額および死亡保険金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

アセット・アロケーションSA（2023年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2003年12月1日
【資産分類】アセット・アロケーション
【運用方針】
国内外の株式等を主要投資対象としますが、投資対象には特に制限を設けず、積極的かつ長期スタンスの運用により円ベースでの資産の成長を目指します。
【投資対象となる投資信託】
さわかみファンド

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：千円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	17,287	1.9%
有価証券等		
さわかみファンド	886,451	98.1%
その他	－	－
資産合計	903,739	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	903,739	100.0%

■ユニットプライスの推移

	ユニットプライス	前月比
2020年 3月31日	157.39	－
2022年 3月31日	213.54	4.30%
4月30日	200.34	−6.18%
5月31日	209.07	4.36%
6月30日	204.53	−2.17%
7月31日	212.12	3.71%
8月31日	217.12	2.36%
9月30日	206.61	−4.84%
10月31日	207.36	0.36%
11月30日	215.47	3.91%
12月31日	199.96	−7.20%
2023年 1月31日	209.80	4.92%
2月28日	209.60	−0.10%
3月31日	212.55	1.41%
3ヶ月変化率		6.30%
6ヶ月変化率		2.87%
1年変化率		−0.47%
3年変化率		35.04%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

さわかみファンドの基本情報

【運用会社】さわかみ投信
【運用対象】国内外の株式、債券
【ベンチマーク】特に定めません。

運用状況

■市場別構成比（2023.3末現在）

市場	銘柄数	構成比
東証プライム	99	82.4%
東証スタンダード	3	0.5%
東証グロース	5	0.3%
その他国内市場	0	－
外国市場	18	2.9%

※上記比率は、純資産総額に対する比率です。

■銘柄数　125（2023.3末現在）

■上位10業種構成比（2023.3末現在）

	業種	構成比
1	機械	15.9%
2	電気機器	14.6%
3	化学	13.0%
4	輸送用機器	7.2%
5	精密機器	7.1%
6	ガラス・土石製品	4.2%
7	食料品	3.8%
8	ゴム製品	3.7%
9	卸売業	3.3%
10	小売業	3.2%

※上記比率は、純資産総額に対する比率です。
※業種は東証33業種分類による。

■組入上位10銘柄（2023.3末現在）

	銘柄名	業種	構成比
1	信越化学工業	化学	4.54%
2	ダイキン工業	機械	4.41%
3	浜松ホトニクス	電気機器	4.15%
4	ブリヂストン	ゴム製品	3.69%
5	テルモ	精密機器	2.92%
6	トヨタ自動車	輸送用機器	2.76%
7	日本電産	電気機器	2.65%
8	ディスコ	機械	2.58%
9	ＴＯＴＯ	ガラス・土石製品	2.34%
10	セブン＆アイ・ホールディングス	小売業	2.23%

※上記比率は、純資産総額に対する比率です。

【運用会社による投資信託へのコメント】（2023.3末現在）
欧米での複数銀行の経営危機・破綻は、金融緩和バブルの末路を示唆しました。また地政学ではロシア・ウクライナ紛争の深刻化、EUでの原発グリーン認定の機運やエンジン車の新車販売（2035年以降）の容認化など、一年前には予想しなかった混沌とした状況が続いています。このような際に信頼できるのは、世の中になくてはならない企業の有機的成長です。皆さまのさわかみファンドは、世界情勢に目くばせしつつ当該企業の詳細調査に専念しています。一方で一般生活者心理の将来予測に関して、WBCでの侍JAPANの優勝には貴重な学びがありました。専門家によると600億円の経済効果とのこと。それ以上に次世代の若人たちに伝わったであろう夢や諦めない心の価値に注目しました。今大会の主力選手たちも、2009年大会優勝のイチロー選手をテレビで見て代表への夢を持ったとのこと。次世代の日本経済最悪のシナリオは、将来の希望や夢を堂々と語る人材が枯れてしまうことだと思います。さわかみファンドも、ファンド仲間の皆さまの長期的な資産形成のお手伝いを一義としながら、その先にある次世代の夢や自信を表現できる存在であるよう尽力して参ります。来年度もどうぞご期待ください。（3月27日）

・当資料は、投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる半面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、積立金額、満期払戻金額、解約払戻金額および死亡保険金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界バランスDSA（2023年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2003年12月1日
【資産分類】バランス
【運用方針】
日本を含む世界各国の株式および公社債に分散投資を行い、中長期的な資産の成長を目指します。株式と債券の基本資産配分比率は6：4とします。原則として為替ヘッジは行いません。
【投資対象となる投資信託】
大和住銀グローバルバランスファンドSVA

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：千円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	3,758	1.5%
有価証券等 大和住銀グローバルバランス ファンドSVA	254,248	98.5%
その他	－	－
資産合計	258,007	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	258,007	100.0%

■ユニットプライスの推移

	ユニットプライス	前月比
2020年 3月31日	199.22	－
2022年 3月31日	285.13	6.17%
4月30日	272.83	−4.31%
5月31日	270.27	−0.94%
6月30日	272.35	0.77%
7月31日	276.39	1.48%
8月31日	279.32	1.06%
9月30日	271.07	−2.95%
10月31日	279.40	3.07%
11月30日	276.98	−0.86%
12月31日	265.00	−4.33%
2023年 1月31日	272.85	2.96%
2月28日	276.08	1.18%
3月31日	274.38	−0.61%

3ヶ月変化率	3.54%
6ヶ月変化率	1.22%
1年変化率	−3.77%
3年変化率	37.72%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

大和住銀グローバルバランスファンドSVAの基本情報

【運用会社】三井住友DSアセットマネジメント
（投資顧問）ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド，
ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インク
【運用対象】日本を含む世界各国の株式および公社債
【ベンチマーク】MSCIワールド・インデックス（円換算）：60%、
FTSE世界国債インデックス（円換算）：40%

運用状況

■資産構成（2023.3末現在）

ファンド名	構成比
インターナショナル株式マザーファンド	55.3%
グローバル債券マザーファンド	36.1%
日本株マザーファンド	4.2%
短期金融資産等	4.3%

※各マザーファンドへの投資割合

■インターナショナル株式組入上位10銘柄（2023.3末現在）

	銘柄名	国名	業種	構成比
1	APPLE INC	アメリカ	情報技術	4.5%
2	MICROSOFT CORP	アメリカ	情報技術	4.3%
3	LONDON STOCK EXCHANGE GROUP	イギリス	金融	3.2%
4	UNITEDHEALTH GROUP INC	アメリカ	ヘルスケア	3.2%
5	ELI LILLY & CO	アメリカ	ヘルスケア	3.2%
6	T-MOBILE US INC	アメリカ	コミュニケーション・サービス	2.8%
7	MASTERCARD INC - A	アメリカ	金融	2.7%
8	AMADEUS IT GROUP SA	スペイン	一般消費財・サービス	2.5%
9	SARTORIUS AG-VORZUG	ドイツ	ヘルスケア	2.3%
10	CHUBB LTD	スイス	金融	2.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
（銘柄数　74）

■グローバル債券組入上位10銘柄（2023.3末現在）

	銘柄名	国名	構成比
1	US TREASURY N/B 3.875 11/30/27	アメリカ	12.0%
2	US TREASURY N/B 4.125 11/15/32	アメリカ	6.2%
3	UK GILT 3.25 01/31/33	イギリス	5.3%
4	US TREASURY N/B 4 11/15/52	アメリカ	4.6%
5	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND 0.5 08/15/27	ドイツ	4.3%
6	NEW ZEALAND GOVERNMENT 3.5 04/14/33	ニュージーランド	4.2%
7	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND 0 11/15/28	ドイツ	3.7%
8	US TREASURY N/B 4 02/28/30	アメリカ	3.0%
9	15 40年国債	日本	2.9%
10	MEX BONOS DESARR FIX RT 7.5 05/26/33	メキシコ	2.7%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
（銘柄数　21）

■日本株組入上位10銘柄（2023.3末現在）

	銘柄名	業種	構成比
1	NEXT FUNDS TOPIX連動型上場投信	ETF	5.1%
2	ダイワ上場投信－トピックス	ETF	4.6%
3	ＨＯＹＡ	精密機器	3.9%
4	東映アニメーション	情報・通信業	3.5%
5	北國フィナンシャルホールディングス	銀行業	3.3%
6	ソニーグループ	電気機器	3.2%
7	東洋水産	食料品	3.0%
8	富士電機	電気機器	2.8%
9	日清オイリオグループ	食料品	2.6%
10	ＴＤＫ	電気機器	2.5%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
（銘柄数　25）

・当資料は、投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる半面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、積立金額、満期払戻金額、解約払戻金額および死亡保険金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界債券ヘッジMA（2023年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

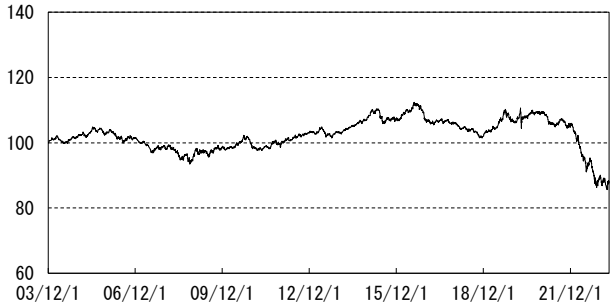
【特別勘定の設定日】2003年12月1日
【資産分類】世界債券
【運用方針】
日本を含む世界主要国の国債等（国債、政府機関債、国際機関債）を中心に公社債に投資を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。投資する公社債は、取得時において投資適格または同等の信用力を有するものとします。原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
【投資対象となる投資信託】
JDFワールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジあり）

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：千円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	1,994	2.0%
有価証券等 JDFワールド・ボンド・ファンド （為替ヘッジあり）	99,807	98.0%
その他	－	－
資産合計	101,801	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	101,801	100.0%

■ユニットプライスの推移



	ユニットプライス	前月比
2020年 3月31日	107.64	－
2022年 3月31日	98.32	−2.39%
4月30日	96.52	−1.83%
5月31日	95.36	−1.20%
6月30日	92.08	−3.44%
7月31日	94.49	2.62%
8月31日	92.17	−2.46%
9月30日	88.58	−3.89%
10月31日	88.21	−0.42%
11月30日	88.85	0.73%
12月31日	86.90	−2.19%
2023年 1月31日	88.23	1.53%
2月28日	86.27	−2.22%
3月31日	87.54	1.47%

3ヶ月変化率	0.74%
6ヶ月変化率	−1.17%
1年変化率	−10.96%
3年変化率	−18.67%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

JDFワールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジあり）の基本情報

【運用会社】ブラックロック・ジャパン
【運用対象】日本を含む世界主要国の信用力の高い公社債
【ベンチマーク】FTSE世界国債インデックス（円ヘッジ　円ベース）

運用状況

■国別通貨別構成比率（2023.3末現在）

	ベンチマーク	債券	通貨
米国	42.7%	53.8%	1.0%
カナダ	1.8%	1.7%	0.1%
メキシコ	0.8%	1.7%	0.1%
日本	13.6%	14.7%	98.0%
オーストラリア	1.4%	1.5%	0.1%
ニュージーランド	0.2%	－%	－%
シンガポール	0.4%	0.5%	0.0%
中国	4.3%	3.8%	0.1%
マレーシア	0.5%	－%	－%
ユーロ	28.8%	28.9%	0.5%
英国	4.2%	7.0%	0.1%
デンマーク	0.3%	0.4%	0.0%
スウェーデン	0.2%	0.3%	0.0%
ポーランド	0.4%	0.5%	0.1%
ノルウェー	0.1%	0.2%	0.0%
イスラエル	0.3%	－%	－%
国際機関	－%	1.1%	－%
キャッシュ等		−16.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%

※ベンチマークは FTSE 世界国債インデックス 2023 年 4 月の構成比率
※債券は発行国ベース、債券先物と金利先物（先物の売建てはマイナス表示）を含みます
※通貨は実質為替組入比率
※比率は対純資産総額、マザーファンドベース

■組入上位10銘柄（2023.3末現在）

	銘柄名	利率	償還年月日	構成比
1	アメリカ国債	0.125	2023/8/31	7.8%
2	アメリカ国債	2.500	2024/5/31	3.9%
3	アメリカ国債	2.500	2027/3/31	2.6%
4	アメリカ国債	0.500	2023/11/30	2.6%
5	アメリカ国債	0.500	2027/8/31	1.9%
6	アメリカ国債	1.250	2024/8/31	1.8%
7	アメリカ国債	4.250	2024/9/30	1.7%
8	イタリア国債	1.600	2026/6/1	1.5%
9	日本国債	1.800	2031/9/20	1.5%
10	フランス国債	1.000	2027/5/25	1.5%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
（銘柄数　299）

修正デュレーション＝平均7.55年（ベンチマーク＝同7.54年）

・当資料は、投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる半面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、積立金額、満期払戻金額、解約払戻金額および死亡保険金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界債券MA（2023年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2003年12月1日
【資産分類】世界債券
【運用方針】
日本を含む世界主要国の国債等（国債、政府機関債、国際機関債）を中心に公社債に投資を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。投資する公社債は、取得時において投資適格または同等の信用力を有するものとします。原則として為替ヘッジは行いません。
【投資対象となる投資信託】
JDFワールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジなし）

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：千円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	2,481	1.8%
有価証券等 JDFワールド・ボンド・ファンド （為替ヘッジなし）	136,870	98.2%
その他	－	－
資産合計	139,351	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	139,351	100.0%

■ユニットプライスの推移

	ユニットプライス	前月比
2020年 3月31日	124.09	－
2022年 3月31日	128.26	2.19%
4月30日	128.16	−0.07%
5月31日	126.62	−1.20%
6月30日	128.41	1.41%
7月31日	130.62	1.73%
8月31日	128.51	−1.62%
9月30日	126.16	−1.83%
10月31日	128.71	2.02%
11月30日	125.91	−2.18%
12月31日	120.98	−3.91%
2023年 1月31日	121.44	0.38%
2月28日	122.25	0.66%
3月31日	122.72	0.38%
3ヶ月変化率		1.43%
6ヶ月変化率		−2.73%
1年変化率		−4.32%
3年変化率		−1.11%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

JDFワールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジなし）の基本情報

【運用会社】ブラックロック・ジャパン
【運用対象】日本を含む世界主要国の信用力の高い公社債
【ベンチマーク】FTSE世界国債インデックス（円ベース）

運用状況

■国別通貨別構成比率（2023.3末現在）

	ベンチマーク	債券	通貨
米国	42.7%	53.5%	42.5%
カナダ	1.8%	2.0%	1.8%
メキシコ	0.8%	1.7%	0.8%
南アフリカ	－%	－%	0.0%
日本	13.6%	13.8%	13.8%
オーストラリア	1.4%	1.6%	1.4%
ニュージーランド	0.2%	－%	－%
シンガポール	0.4%	0.4%	0.9%
中国	4.3%	4.0%	4.1%
マレーシア	0.5%	－%	－%
ユーロ	28.8%	31.3%	29.0%
英国	4.2%	6.2%	4.2%
デンマーク	0.3%	0.2%	0.3%

	ベンチマーク	債券	通貨
スウェーデン	0.2%	0.5%	0.2%
ポーランド	0.4%	0.4%	0.4%
ノルウェー	0.1%	0.3%	0.2%
イスラエル	0.3%	－%	0.3%
国際機関	－%	1.3%	－%
キャッシュ等		−17.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%

※ベンチマークは FTSE 世界国債インデックス 2023 年 4 月の構成比率
※債券は発行国ベース、債券先物と金利先物（先物の売建てはマイナス表示）を含みます
※通貨は実質為替組入比率
※比率は対純資産総額、マザーファンドベース

■組入上位10銘柄（2023.3末現在）

	銘柄名	利率	償還年月日	構成比
1	アメリカ国債	1.500	2024/2/29	6.7%
2	アメリカ国債	2.250	2024/3/31	6.3%
3	アメリカ国債	3.000	2024/6/30	4.5%
4	フランス国債	－	2026/2/25	2.5%
5	イタリア国債	0.600	2023/6/15	2.4%
6	日本国債	0.100	2029/9/20	2.0%
7	アメリカ国債	3.250	2024/8/31	1.9%
8	日本国債	0.800	2047/3/20	1.7%
9	アメリカ国債	－	2023/5/18	1.6%
10	日本国債	1.900	2042/9/20	1.6%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
（銘柄数　246）

修正デュレーション＝平均7.45年（ベンチマーク＝同7.54年）

・当資料は、投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる半面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、積立金額、満期払戻金額、解約払戻金額および死亡保険金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

マネー・プールB（2023年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

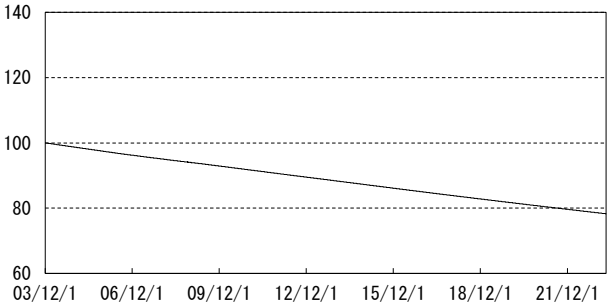
【特別勘定の設定日】2003年12月1日
【資産分類】短期金融商品
【運用方針】
円建ての預貯金、短期金融商品を中心に投資を行います。流動性に十分配慮し、リスクを抑えた安定的な運用を行います。
【投資対象】
短期金融商品

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：千円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	52,825	100.0%
有価証券等	—	—
その他	—	—
資産合計	52,825	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	52,825	100.0%

■ユニットプライスの推移



	ユニットプライス	前月比
2020年 3月31日	81.38	—
2022年 3月31日	79.29	−0.11%
4月30日	79.21	−0.11%
5月31日	79.12	−0.11%
6月30日	79.04	−0.11%
7月31日	78.95	−0.11%
8月31日	78.86	−0.11%
9月30日	78.78	−0.11%
10月31日	78.69	−0.11%
11月30日	78.61	−0.11%
12月31日	78.52	−0.11%
2023年 1月31日	78.43	−0.11%
2月28日	78.35	−0.10%
3月31日	78.27	−0.11%
3ヶ月変化率		−0.32%
6ヶ月変化率		−0.65%
1年変化率		−1.29%
3年変化率		−3.82%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

※マーケットの先行きが著しく読みにくい局面等で資金を一時的に待避させる目的でご利用ください。

・当資料は、投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型ユニバーサル保険　Prime Life（自由定期付積立型新変額保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる半面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、積立金額、満期払戻金額、解約払戻金額および死亡保険金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

投資リスクについて

この商品は、将来受け取る死亡保険金額、満期払戻金額、解約払戻金額等が特別勘定の運用実績に基づいて増減するしくみの生命保険です。特別勘定は投資信託を通じて国内外の株式・債券等に投資されますので、この商品には価格変動リスク・為替変動リスク・信用リスク・金利変動リスク等の投資リスクがあります。そのため、株価や債券価格の下落・為替の変動等により、満期払戻金、解約払戻金等のお受け取り金額が、お支払いいただいた保険料の合計額を下回る可能性があります。

ご負担いただく費用について

■保険期間中に必ずご負担いただく費用

項　目	費　用
保険契約管理費	特別勘定の純資産総額に対して年率1.3%
資産運用関係費用* （資産運用管理費）	特別勘定の投資対象となる投資信託の純資産総額に対して上限年率1.10%（税込）程度 各特別勘定により異なります。詳しくは、P.3の「特別勘定の内容」をご覧ください。
危険保険料	月単位の契約応当日の前日の危険保険金額に危険保険料率を乗じた額（危険保険料）
死亡保障関係費	月単位の契約応当日の前日の危険保険金額に対し0.01%／月

＊資産運用関係費用は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、監査報酬、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等がかかりますが、費用の発生前に金額や計算方法を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は投資信託の純資産総額より差し引かれます。したがって、ご契約者はこれらの費用を間接的に負担することになります。なお、資産運用関係費用は、運用手法の変更等により将来変更される可能性があります。

■特定の取引の場合にご負担いただく費用

項　目	適　用	費　用
保険契約関係費	月単位の契約応当日の前日末の積立金額が100万円未満の契約	毎月…250円
積立金移転費用	1保険年度12回を超える積立金の移転の際	1保険年度に12回までの移転…無料 1保険年度に12回を超える移転…1回につき1,000円
契約者貸付利息	契約者貸付を受けたとき	貸付金額に対して年率1.3%
解約控除費用	契約日から解約控除対象期間内に解約・減額・一部引出したとき	積立金および危険保険金に対して、所定の解約控除率を乗じて算出した金額

■ご負担いただく費用の合計額について

この商品にかかる費用の合計額は、上記「保険契約管理費」、「資産運用関係費用」、「危険保険料」、「死亡保障関係費」の合計額となります（ただし、一定期間内の解約については「解約控除費用」、積立金の移転が1保険年度12回を超えた場合には「積立金移転費用」等が別途かかりますのでご注意ください）。

ご注意いただきたい事項

- 「プライムライフ」は東京海上日動あんしん生命保険株式会社を引受保険会社とする生命保険（変額保険）です。
- 「プライムライフ」には投資リスクがあり、投資リスクはご契約者に帰属します。場合によっては将来お受け取りになる金額が、払込保険料総額を下回る可能性があります。

【募集代理店】

【引受保険会社】

東京海上日動あんしん生命保険株式会社

ホームページ https://www.tmn-anshin.co.jp/

ご契約内容・各種手続きに関するお問合せ

0120-155-730

受付時間　平日9：00～17：00
（土曜・日曜・祝日・年末年始を除きます。）